



松平春嶽 書の変遷

- 会場 1階 松平家史料展示室
- 会期 平成16年11月10日(水)～12月27日(月)

16代福井藩主松平春嶽（1828～1890）は書をよくし、幕末維新期の優れた指導者というだけでなく、書家としてまた文人として多くの作品を残しました。春嶽の書は、中国の名言に取材した内容のものが多くありますが、いずれも自らの生き方において目標となる事柄を選んで書いたようです。

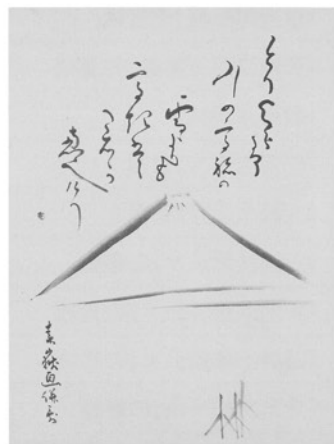
また、歌人であり漢詩人としても評価されている春嶽は、自詠や自賦の作品も書に認めています。これらの多くは春嶽の没後、春嶽一代限りの遺墨や遺品を相続した嫡男慶民が春嶽公記念文庫に収めて今日に伝えました。学問を尊んだ田安徳川家出身で、北陸大藩の藩主である春嶽が、幼いころより研鑽した書には気品と気迫が満ち溢れています。書はかきての人柄をよく表すといいます。ぜひこの機会に書を通して春嶽の人となりにふれてみてください。



「元氣」天保11年(1840)
13歳の書

松平春嶽生涯の書

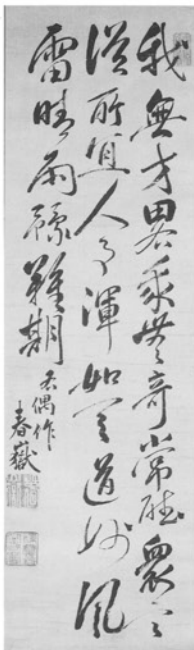
春嶽の書は、福井藩主に就任した天保9年（1838）、十一歳の時の書初めや手習い以降のものが伝存しています。しかし、今日残されている春嶽の書は、幼青年期や晩年のものが圧倒的に多く、壮年期の作品が稀なのです。それは、春嶽が藩政改革や国事に奔走していた時代には大好きな書も多くを残すことができなかつたためかもしれません。春嶽の書道の先生は、岡田顕忠（李太夫）という文人・書家でしたが、その顕忠のお手本や遠慮なく朱筆が施こされた春嶽の手習いの綴りものこされています。春嶽の書道修養は生涯続けられ、素直な幼年期のあどけない書体から青年期の活気あふれる堂々たる書、そして円熟味をおびた優しくかれた運筆に魅了されます。春嶽の生涯にわたる書の履歴を味わってください。



「とりよらふふじの高ねの云々」
の和歌幅

松平春嶽の和歌

春嶽は和歌もよくつくりました。書とともに生涯その研鑽を怠りませんでした。春嶽の実家田安家は、独自の歌論を展開したことで近世の歌壇史に名高い田安宗武の伝統を継ぐ「和歌の家」でありました。春嶽は、生涯千五百首を越える詠歌を短冊や懐紙・和歌幅などに認め多くを残しています。春嶽の和歌の先生としては、井上文雄・橘曙覧・佐々木弘綱がいます。



「我に才略無く我に奇なし云々」の詩幅

松平春嶽の漢詩

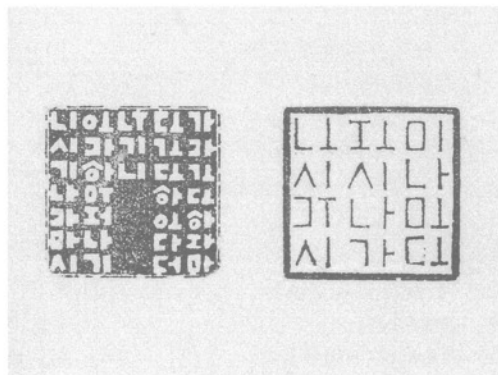
春嶽は、親友の土佐高知藩主山内容堂（豊信）とともに幕末の藩主の中でも漢詩人として高く評価されています。春嶽の漢詩は、中国の陶淵明や頼山陽・林子平など日本の代表的な詩人たちの作風もよく学んでいます。春嶽の漢詩の中で最も著名なものに「我に才略無く云々」の「偶作」・七言絶句があります。これは春嶽の人柄を余すところ無く伝えた秀作といえるでしょう。

松平春嶽の文房具

文人であった春嶽だけあって文房具類は多く伝存しています。作家や由緒にこだわった筆・硯・墨・文鎮などに愛用のあとが偲べれます。

松平春嶽の印章

福井市春嶽公記念文庫には春嶽の印章類が九十三年保存されています。藩士の浅井正昭や河崎致高、親友の山内容堂の刻によるものなどの他、いわゆる神代文字の影響を受けて印刻した珍しいものも見られます。



いわゆる「神代文字」の落款印

展示品目録

	資 料 名	員数	年 代	備 考
	〈松平春嶽生涯の書〉			
1	「元氣」の書額	1	天保9年(1838)	春嶽11歳の揮毫
2	「元氣」の書幅	1	年代不詳	春嶽12～13歳の揮毫
3	「元氣」の書幅	1	天保11年(1840)	春嶽13歳の揮毫
4	岡田李太夫筆 習字手習い手本	4		春嶽少年期のもの
5	松平春嶽習字手習い臨写綴	9		春嶽少年期のもの
6	「万事足」の書幅	1	天保9年(1838)	春嶽11歳の揮毫
7	「思無邪」の書幅	1	天保10年(1839)	春嶽12歳の揮毫
8	「日慎一日」の書幅	1	天保11年(1840)	春嶽13歳の揮毫
9	「一元施大化」の書幅	1	弘化4年(1847)1月	春嶽20歳の揮毫
10	「廣大無私覆」の書幅	1	嘉永元年(1848)	春嶽21歳の揮毫
11	「天地交而万物通」の書幅	1	嘉永2年(1849)	春嶽22歳の揮毫
12	「敏徳」の書幅	1	嘉永6年(1853)2月	春嶽26歳の揮毫
13	「任重道遠」の書幅	1	年代不詳	春嶽20歳代の揮毫
14	「大器晩成」の書幅	1	年代不詳	春嶽青年時代の揮毫
15	「万国移風云々」の書幅	1	明治7年(1874)元旦	春嶽47歳の揮毫
16	「天地無内外云々」の書幅	1	明治10年(1877)以降	
17	「鶴舞千年樹云々」の書幅	1	明治17年(1884)1月3日	春嶽57歳の揮毫
18	「元旦又如天地」の書幅	1	明治18年(1885)1月	春嶽58歳の揮毫
○19	「五則」の書	1	年代不詳	
20	習字手本	7	明治21年(1888)子息慶民に書き与えたもの	春嶽61歳の揮毫
	〈松平春嶽の和歌〉			
21	「天の戸の云々」の和歌幅	1		
22	「とりよらふふじの高ねの云々」の和歌幅	1		
23	「あらたまる年と思へば云々」の和歌幅	1		
24	「小倉山・おのづから云々」の和歌幅	1		
25	十三夜歌会兼題	1		春嶽18歳頃の書
	〈松平春嶽の漢詩〉			
26	「白髪空く嗟く云々」の「感懐旧製」の詩幅	1		旧南葵文庫蔵
27	「我に才略無く我に奇なし云々」の詩幅	1		
	〈松平春嶽の文房具〉			
28	松平春嶽各種文房具類	20		
	〈松平春嶽の印章〉			
29	松平春嶽愛用落款印類	30		

○=越葵文庫、その他は福井市春嶽公記念文庫蔵

見どころ講座「松平春嶽 書の変遷」

日時 11/13(土)午後2時～
 場所 講堂(2階)
 担当 角鹿尚計(当館学芸員)
 定員 60人 当日受付

【次回の展示】(松平家史料展示室)

城下の正月行事 馬威し
 平成17年 1/5(土)～2/27(日)
 見どころ講座 1月15日(土)午後2時～
 休館日 12/28(火)・H17・1/4(火)・31(月)

展示解説シート No.7 平成16年11月10日発行

福井市立郷土歴史博物館

〒910-0004 福井市宝永3-12-1
 電話(0776)21-0489 FAX(0776)21-1489
 担当 角鹿 尚計